学推だより vol.6

KOKURA
Elementary School
June 4th / THU / 2015
発行：学推担当

主体的に学習に取り組む態度の育成について②。

アクティブ・ラーニングの「主体的に学ぶ」の視点から。

前号では、笠井教科調査官（算数担当）の次のご指摘を紹介させていただきました。

全国の授業を見せてもらおうと、問題解決する授業をしてはいるが、**全て教師の指示で授業が流れていることがある。子どもたちは主体的に活動しているのではない。**

大変うちあたいてしまうご指摘です。また、私たちは普段の授業で、「**友達の考えを聞きましょう**」「**どの解き方がよいか考えましょう**」「**また似ている考えを見つけましょう**」と、子どもたちに指示を出す場面があります。これに対しても笠井教科調査官は、「**なぜ友達の考えを聞くとよいのか。なぜ似ている考えを見つけるのか。これらのことが子どもたちに理解されているのだろうか。**」というご指摘をなさっています。ここまで言われると、言葉が出ない私がありました。

つまり、「**問題解決する授業における学習活動一つ一つの目的を、子どもがしっかり理解しているかどうかを問い直しなさい**」と言われているように私は感じました。そして、次のように答えておられます。

なぜ友達の考えを聞くとよいのか。それは、自分の考えより、よい考えを自分が知るためである。よりよい考えを知るだけでなく、実際にできるようになるためである。そのためには、実際に似た問題を自分のやり方と友達のやり方の両方で解いてみる必要がある。

なぜ似ている考えを見つけるのか。それは、似ている考えの共通部分に、問題を解く本質があるからである。言い換えると、問題を解くポイントがあるからである。このポイントを見いだしまとめることで、新たな概念が生まれたり、公式にすべき方法が生み出されていくからである。

このことから、学習活動の目的を子どもが**実感を伴って理解すること**の大切さを改めて考えさせられました。最後に、笠井教科調査官はお話を次のようにまとめられていました。

主体的に算数の学習に取り組むことは、子ども自身がそういう態度を「取ることを知ること」「取ることができること」「取ることのよさを実感すること」である。これらがあって、そういう態度を自然と取れるようになる。

算数の授業の中で、子どもが「このようなことをしてよかった」と思う体験を、少しずつ積み上げていきたいと思いながら、4、5月の私自身の授業を振り返っていました。